

板橋区スマートシティ推進方針



板橋区

1 これまでの経緯

板橋区は、平成 28 年 1 月に策定した「板橋区基本計画 2025」において、限られた経営資源を集中的に投入すべき「未来創造戦略」を立て、選ばれるまちとしての魅力を創造・発信するまち「魅力創造発信都市」と、安心・安全な環境が整い住み続けたいくなるまち「安心安全環境都市」といった 2 つの都市像を指向しながら、板橋区基本構想に掲げる区全体の将来像である「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」を実現し「東京で一番住みたくないまち」として評価されるまちをめざしています。

この未来創造戦略は 3 つの戦略を柱としており、そのうちの一つ「未来へつなぐまちづくり戦略」の中で、**環境に配慮したまちづくり（スマートシティ）等を推進し、都市としての魅力を高めていく**と掲げています。

また、平成 28 年 3 月に策定した「板橋区環境基本計画 2025」では、平成 26 年に板橋区が取りまとめた「板橋区スマートシティ検討調査報告書」の内容を踏まえ、**環境、防災・減災、健康・福祉、教育・保育などの側面を包括した“板橋区らしいスマートシティの構築”を進めていく**としています。

これらを踏まえ、本方針は、**概ね 10 年後の将来像と施策の方向性を示し、区民・事業者を含めた様々な主体における様々な分野での施策・事業において、スマートシティの考え方に基づいた取り組みが推進されることを目的として策定する**ものです。

板橋区基本計画 2025 (平成 28 年 1 月)

環境に配慮したまちづくり（スマートシティ）や災害に強い安心・安全なまちづくり、都心へ短時間でアクセスできる公共交通網を活かした快適で便利なまちづくり**を推進し、都市としての魅力を高めていきます。**

板橋区スマートシティ検討調査報告書(平成 26 年 7 月)

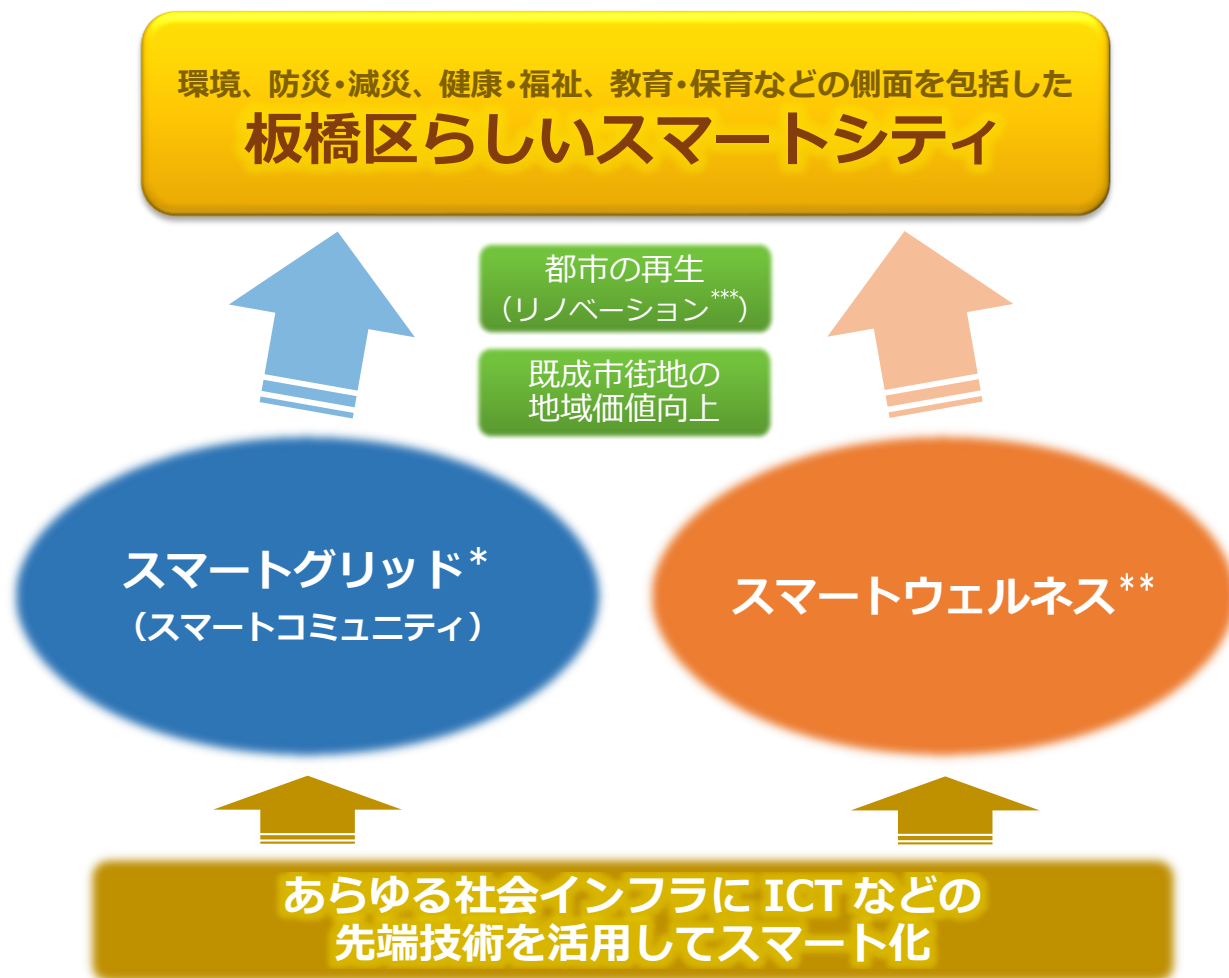
既存施策や資源を効率化・最適化（スマート化）し、既成市街地における地域価値の向上と都市の再生を達成する「板橋区らしいスマートシティ」を構築し、東京で一番住みたくないまちの実現、区民の幸福向上をめざす。

板橋区環境基本計画 2025(平成 28 年 3 月)

「あらゆる社会インフラに ICT などの先端技術を活用してスマート化し、**安心安全、便利で無駄のない暮らしや経済活動の実現をめざすまちづくり**」というスマートシティの一般的な考え方を基盤とし、**環境、防災・減災、健康・福祉、教育・保育などの側面を包括した「板橋区らしいスマートシティの構築」を進めていきます。**

2 「板橋区らしいスマートシティ」の考え方

板橋区らしいスマートシティは、**スマートグリッド**（または**スマートコミュニティ**）*と**スマートウェルネス****の両者の考え方を併せ持って成立するものです。この考え方に基づき、これまでのハード（建物・土地利用等）中心のまちづくりにソフト（データの利活用等）の要素を加え、ICT等の先端技術を活用することで、板橋区の大部分を占める“既成市街地”の地域価値向上と都市の再生を実現していくものです。



*スマートグリッド（スマートコミュニティ）：

家庭やビル、交通システムなどを ICT ネットワークでつなげ、地域でエネルギーを有効活用し環境負荷を抑えるまちづくりの考え方。

**スマートウェルネス：

身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活が送れるまちをめざす考え方。

***リノベーション：

手を加えてよくすること。改革、刷新。既存の建物を大規模に改修し、時代の変化にあわせて建物の機能を向上させたり、付加価値を与えたりすること。

3 方針の位置づけと期間

位置づけ

板橋区基本構想に掲げる区全体の将来像（「あるべき姿」）を実現するため、施策・組織横断的に協働・連携する戦略（未来創造戦略）の展開の一つとして、板橋区基本計画 2025 の3つの基本目標である「未来をはぐくむあたたかいまち」、「いきいきかがやく元気なまち」、「安心・安全で快適な緑のまち」をつなげる役割を持つものです。

板橋区全体の将来像

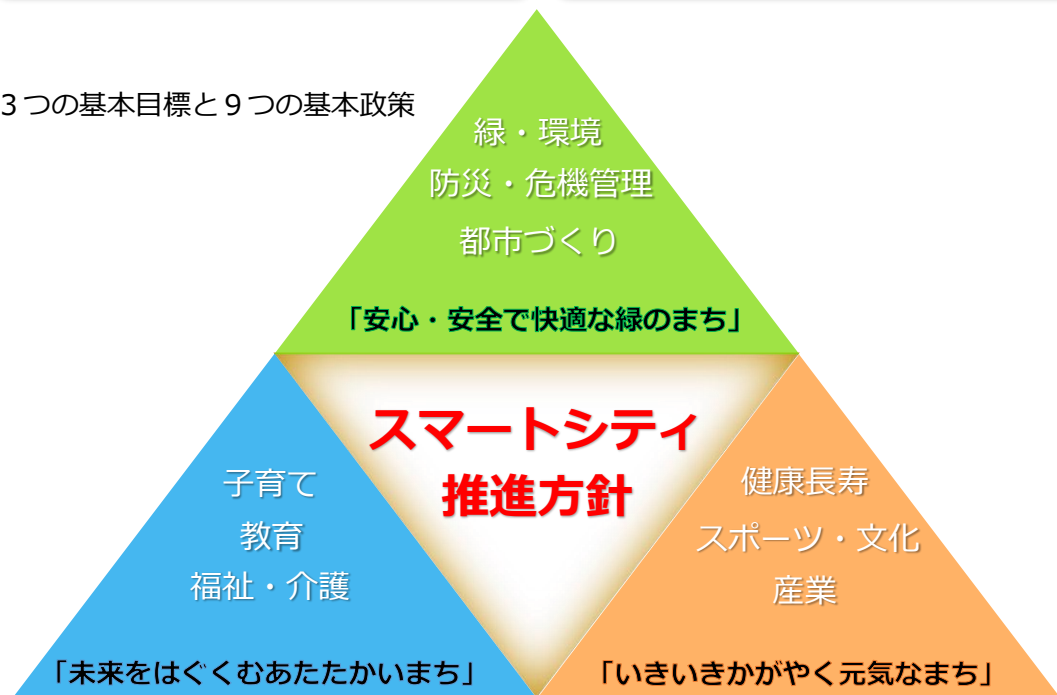
未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”

2つの都市像

魅力創造発信都市

安心安全環境都市

3つの基本目標と9つの基本政策



スマートシティ推進方針を支える手段

**あらゆる社会インフラに ICT などの
先端技術を活用してスマート化**

取り組み期間

本方針に基づく取り組みの期間は、平成 29 年度から、板橋区基本計画 2025 及び板橋区環境基本計画 2025 の最終年度である平成 37 年度を見据え、概ね 10 か年とします。

4 本方針の策定手法

本方針は、将来像や施策の方向性を検討するにあたり、**バックカスティング***という手法を用いました。策定の手順は以下のとおりです。

① ゴール（理想的な将来像）の設定

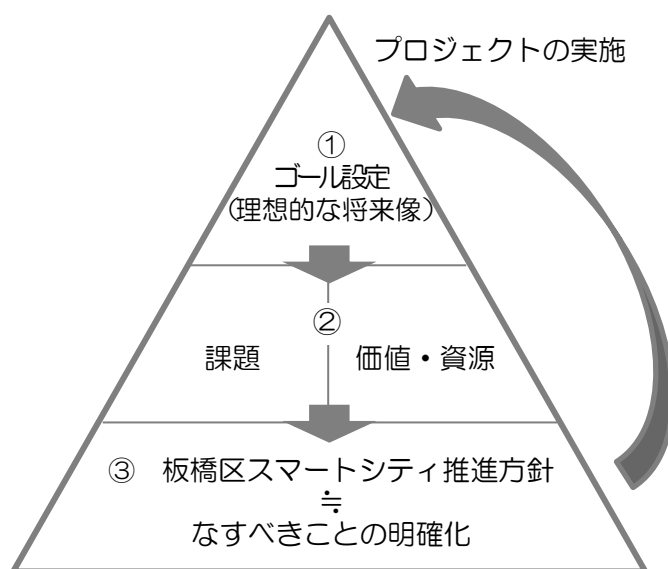
既存計画等で整理された魅力（価値・資源）や課題を意識しつつ、理想的な「板橋区らしいスマートシティ」の実現に向けたゴール（将来像）を設定する。

② ゴールと現在とのギャップの発見

現在の板橋区を見渡して、区内に存在する価値・資源及び課題を抽出する。

③ スマートシティ推進方針の決定

②を踏まえ、ゴールに向けてなすべきことの方向性を明確にし、これを推進方針とする。推進方針に沿ったプロジェクトを実施していくことで、理想的な将来像に近づくことができる。



*バックカスティング：

通常、長期的な計画を考えるためには現状をもとに将来を予測（フォアキャスト）するが、予測どおりにはならないことがほとんどである。これに代わって長期的視野のもと実際の計画を立てる方法として、将来の想定に基づいて、これからの道筋を定める方法論（バックカスティング）がある。

これはまず、マクロな条件をもとに理想的な未来像を想定し、そこから現在を振り返ってみる（バックキャスト）手法である。このことにより、理想とする未来像と現状の間のギャップを正確に把握し、その認識をもとにその未来像の実現に向けてなすべきことを明確にすることができる。このバックキャストのベースになるのが、未来像のシナリオである。このように将来の社会像を具体的に検討することで、多くの人々の間で目標を共有し、またそれに至る実現性の高い計画を立てることが可能になる。

（出典：国土交通省「2030年の日本のあり方を検討するシナリオ作成に関する調査概要」前文）

5 将来像

「板橋区らしいスマートシティ」を実現するための取り組みは、分野、取り組みの内容、実施主体（プレーヤー）が多岐に及ぶため、それぞれがめざすべき方向性を共有するために、概ね 10 年後の将来像を以下のとおり定めます。

なお、この将来像は、板橋区基本構想に掲げる区全体の将来像を、スマートシティの観点・角度から支えていくものです。

板橋区スマートシティのめざす概ね 10 年後の将来像

魅力にあふれ、健康にくらせる持続可能なまち いたばし
～エコでクリエイティブでヘルシーなライフスタイルの実現～

将来像を支える 3 つの着眼点

①

資源・エネルギーを大切にした、エコで持続可能なまち

サステイナブル タウン
Sustainable Town

- 再生可能エネルギー等の利用やエネルギーマネジメントにより、エネルギーの効率的な利用が進み、低炭素なまちが実現しています。
- ICTの利活用や既存施策の組み合わせ、シェアを取り入れた消費スタイルの定着などにより、持続可能な資源利用が進んでいます。

②

新たな挑戦に取り組む、ものづくりが盛んで創造力あふれるまち

クリエイティブ タウン
Creative Town

- ICTの利活用や技術革新などにより多様な働き方を実現した事業者が、ものづくりベンチャーや研究開発型企业などの多様な担い手と融合し、活気あふれる創造的な新産業の集積都市となっています。
- まちの魅力を創造し発信することで、文化、教育などの地域価値が向上し、「東京で一番住みたいくなるまち」が実現しています。

③

健康で快適に住み続けられる、安心・安全なまち

ヘルシー コンフォートブル セーフティ タウン
Healthy , Comfortable & Safety Town

- 様々な場面で社会参加ができる環境が整い、すべての区民が健康的で快適にくらしています。
- ユニバーサルデザインの考え方に沿ったまちの空間づくりや、災害時に活用できる自立分散型電源の地域レベルでの導入が進み、安心・安全にくらせるまちが実現しています。

6 板橋区の価値・資源と課題

バックカスティング（→P.4）の考え方にに基づき、ゴール（将来像）と現在とのギャップを見出すため、将来像を支える3つの着眼点ごとに、板橋区における価値・資源及び課題を以下のとおり整理しました。

区内に存在する価値・資源

① 資源・エネルギーを大切にしたい、エコで持続可能なまち

区内には、荒川の豊かな自然、崖線の緑や湧水、石神井川の流れや桜並木という3つの軸と、道路や緑道、気軽に自然とふれあえる公園や農地など、緑の拠点を要素とした緑のネットワークが構成されています。また、学校をはじめとする多くの施設で「緑のカーテン」が積極的に取り組まれています。

② 新たな挑戦に取り組む、ものづくりが盛んで創造力あふれるまち

区には、板橋 City マラソンや花火大会、農業まつりなどのイベントをはじめ、美術館やボロ一子子ども絵本館、エコポリスセンターなどの文化・教育施設、6つの大学やプロスポーツチームの活動拠点、保幼小中一貫の環境教育など、多くの文化・歴史・教育資源が存在しています。また、都心や副都心へアクセスしやすい交通網や、光学・精密機器をはじめとする産業集積、にぎわいのある商店街など、都内有数の価値の高い資源も存在しています。

③ 健康で快適に住み続けられる、安心・安全なまち

区内の病床数は23区中1位、病院数が同2位であるなど、医療環境が充実しています。また、体育館や室内プール、温浴施設なども多く存在し、健康的な生活を送ることができる環境が整っています。さらに、区内に広く分布する武蔵野台地は、地盤が強固で揺れに強く安全性の高い土地です。

区内に存在する課題

① 資源・エネルギーを大切にしたい、エコで持続可能なまち

エネルギー消費量の家庭部門、業務部門における割合が年々高まっていることから、両部門に対するさらなる省エネの推進が課題です。また、樹林地などの自然の緑が減少を続けており、自然環境の保全も課題です。

② 新たな挑戦に取り組む、ものづくりが盛んで創造力あふれるまち

区を代表する文化イメージが不鮮明で、特色のある文化芸術の創出や若い世代への伝統芸能の伝承が課題です。また、製造業の実力は高いものの、認知度が低い点や、商店街において空き店舗の増加や後継者不足が深刻化している点も課題です。

③ 健康で快適に住み続けられる、安心・安全なまち

65歳健康寿命が東京全体を下回っていることや高齢化に伴う医療・介護需要の増大など、健康寿命の延伸や介護予防への取り組みが課題です。また、木造住宅密集地域や旧耐震基準の建築物が現存しており、木造住宅の建替え促進や耐震化の推進などが課題です。

7 スマートシティ推進方針

将来像を具現化するため、なすべきことの方向性を示す「推進方針」を以下のとおり定めます。方針全体を支える手段として、**あらゆる社会インフラに ICT などの先端技術を活用してスマート化**することを基本に据えた上で、推進方針は、将来像を支える3つの着眼点に沿った方針1～5と、施策を進める上で共通の考え方となる方針6とで構成します。この方針に基づき、区内に存在する課題を単なる課題としてとらえるのではなく、区内に存在する価値・資源と組み合わせることによって新たな価値を創出する資源としてとらえ、既成市街地の再生と地域価値の向上を図り、「板橋区らしいスマートシティ」を実現していきます。

1 エネルギーの賢い活用と創出

エネルギーマネジメントの推進によりエネルギーを効率的に利用し、余剰エネルギーを生みだして持続可能なまちを実現します。

2 シェアによる持続可能な資源利用の促進

情報の発信により共有可能なモノのシェアを促進し、新しい消費スタイルを定着させて限りある資源を有効利用します。

3 新しい産業クラスターの創出と発展

様々な主体による交流・連携を促進し、新しい産業集積（クラスター）の創出・発展をめざします。

4 快適で活力のある健康的で文化的な場の創出

区民や事業者がいきいきと活動できる場をつくとともに、区民の健康寿命を延ばします。

5 地球にも人にもやさしい安心・安全なまちの創出

再生可能エネルギーや自立分散型エネルギー等の活用により、すべての人がくらしやすく、低炭素で安心・安全なまちをつくります。

6 人・モノのつながり促進と魅力発信

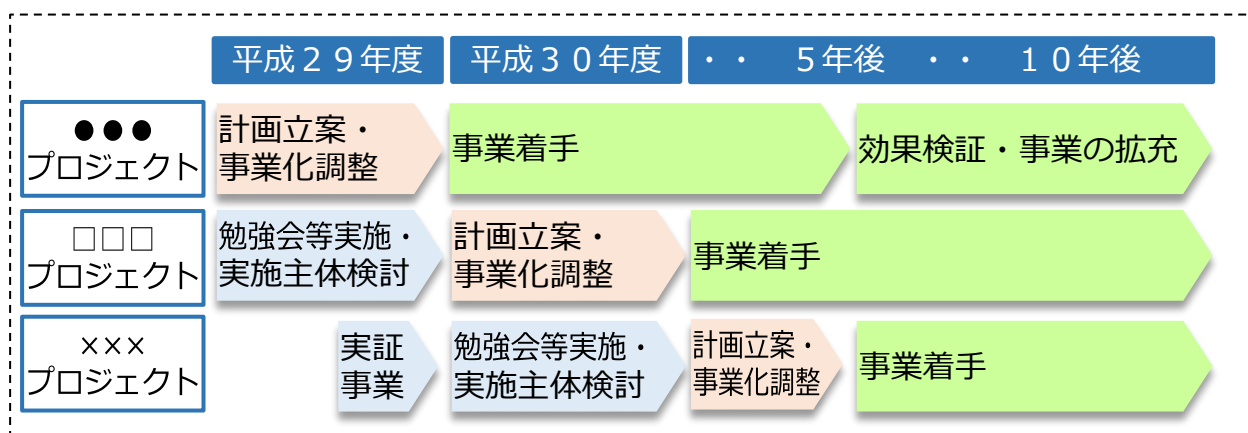
区民・事業者・行政など多くの主体が参加し様々な分野の取り組みをつなげ、新しい価値を創出します。また、こうした取り組みを積極的に発信し、区の魅力を高めます。

あらゆる社会インフラに ICT などの先端技術を活用してスマート化

8 プロジェクト

「板橋区らしいスマートシティ」を実現するためには、本方針の趣旨に沿った取り組み（＝プロジェクト）が具体的に動き出すことが必要です。プロジェクトについては、行政が単独で行うもの、民間事業者等（企業、団体等）と行政が連携して行うもの、民間事業者等が単独で行うものなどが想定されますが、行政においては、組織体制や資源、ノウハウ等が限られており、「板橋区らしいスマートシティ」をスピード感を持って実現するためには、民間事業者等の多様な主体によるプロジェクトへの積極的な参加が、極めて重要となってきます。既存のやり方にとらわれず、**オープンイノベーション***の考え方にに基づき、民間事業者等と行政との連携や、異なる業種の民間事業者同士の連携を中心にプロジェクトを推進し、新しい価値を創出することをめざします。

なお、プロジェクトのうち、本方針が掲げる概ね 10 年後の将来像を実現するために先導的・先駆的な役割を果たし、かつ、複数の分野において事業効果が波及する可能性のあるプロジェクトを、**リーディングプロジェクト**として位置づけ、事業の早期着手、早期実現をめざしていきます。



図：プロジェクトの展開例（年度はイメージ）

*オープンイノベーション：

社会的な共通課題の解決を目的とし、企業、大学・研究機関、行政、市民・ユーザなど多様な主体が多層的に連携・共創し合う循環体制のもと、市民・ユーザが主導するイノベーション（社会変革）のこと。

（出典：オープンイノベーション協議会「オープンイノベーション白書【初版】」平成28年7月）

9 期待されるプロジェクトの例

本方針の趣旨に沿ったプロジェクトとしては、オープンイノベーションの考え方に基づき、多様な主体の参加や様々な分野の取り組みをつなげるものなどを想定しています。以下に示した6つのプロジェクトは、他の地域ですでに取り組みが始まっているものや、民間事業者等が持つアイデアなどを参考に、**板橋区での事業展開が期待されるプロジェクト**を例示したものです。実際のプロジェクトは、実施主体からの提案等に基づき、「板橋区スマートシティ推進協議会」（→P.11）が選定したうえで、事業化に向けて動き出すこととなります。

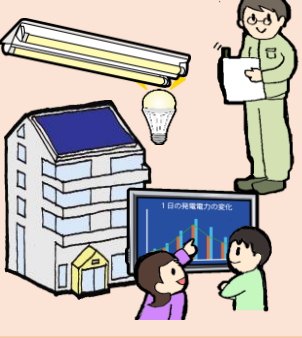
① 地域新電力プロジェクト →関連方針[1][5][6]	
<p>概要</p>	<p>区内で発電した電力を区内で消費する「電力の地産地消」を通じて地域経済を活性化するとともに、電気料金の一部を地域課題の解決などに再投資する。また、蓄電池の設置により面的なエネルギーの効率化を図るとともに、災害などに伴う停電が発生した際には、蓄電池をバックアップ電源として活用することで、防災性の向上も図る。</p>
② 空き家等の遊休施設利活用プロジェクト →関連方針[2][3][4][6]	
<p>概要</p>	<p>ICTを活用し、空き家等の遊休施設を若手事業家向けのコワーキングスペース*や子育て支援機能等を有したサテライト・オフィス**などに整備することで、インキュベーション***拠点の創出、子育て環境の向上、通勤時間の削減をめざす。あわせて、ICTを活用した自動車配信サービス****等との連携の可能性も検討する。</p>

* **コワーキングスペース**：個人事業者や小規模法人などが、それぞれの仕事をしながらコミュニケーションを図ることで情報や知見を共有し、協業パートナーを見つけて、互いに貢献しあう場のこと。

** **サテライト・オフィス**：勤務先以外の場所で社内 LAN などが利用できる環境を整えて、勤務者が遠隔勤務できるようにした場のこと。場所や時間にとらわれない柔軟な働き方が可能となる。

*** **インキュベーション**：英語で“（卵などが）ふ化する”という意味で、起業家の育成や、新しいビジネスを支援するサービス・活動のこと。

**** **自動車配信サービス**：アプリを通じて配車をリクエストし乗車するサービス。料金はあらかじめ登録した支払い方法で請求され、乗車後には運転手・乗客の双方で評価をフィードバックする。

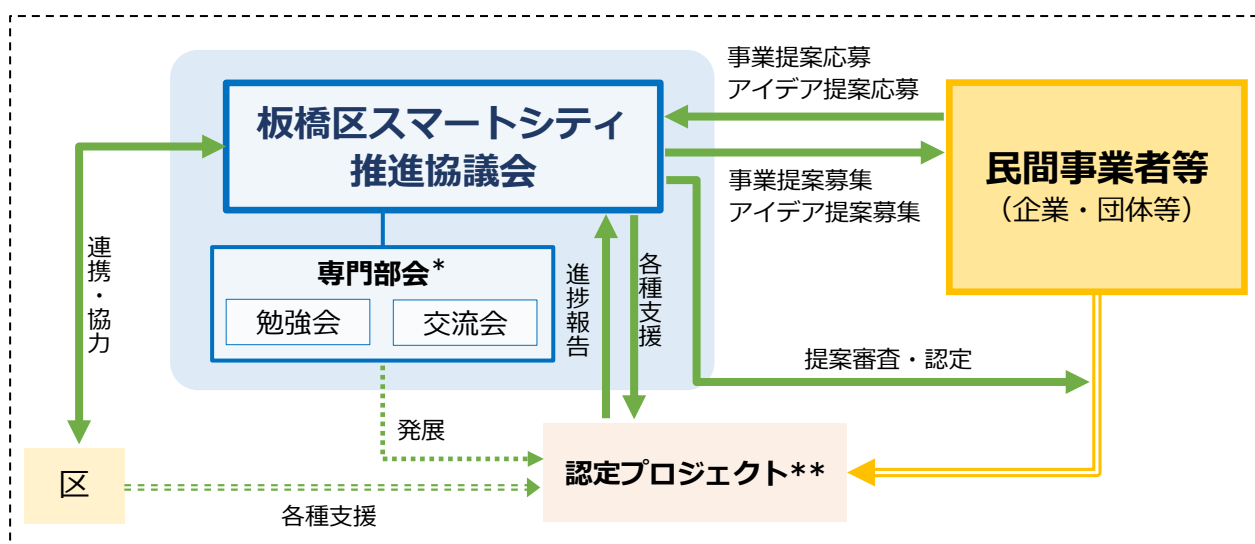
	<p align="center">③ 環境パスポートプロジェクト →関連方針[2][6]</p> <p>鉄道会社やバス事業者等と連携し、交通系ICカードを利用した商店街ポイントや見守りサービス、宅配サービスなどの共通ポイントインフラを導入することで、地域の一体感を醸成し、地域ブランドの構築をめざす。環境行動に対してポイントを付与することにより、ライフスタイルの変革も促進する。</p>	
	<p align="center">④ 元気な高齢者プロジェクト →関連方針[4][6]</p> <p>スマートフォンをはじめとするICT技術等を活用して、高齢者の行動分析等に関するデータ・情報の収集および解析を行う。また、これらのデータ・情報の解析結果を活用し、要介護率の低減や高齢者が元気に活動できる魅力・にぎわいのあるまちづくりをめざす。</p>	
	<p align="center">⑤ 高島平 EMS (エネルギー・マネジメントシステム) プロジェクト →関連方針[1][5][6]</p> <p>高島平地域において、板橋清掃工場などからの排熱等のエネルギーを、近隣の団地をはじめとする集合住宅や病院、公共施設等へ供給して、高効率で低炭素な地域エネルギーネットワークを構築するエリアエネルギー・マネジメントを行う。</p>	
	<p align="center">⑥ 集合住宅スマート化プロジェクト →関連方針[1][5][6]</p> <p>集合住宅に省エネコンサルタント等が訪問し、エネルギー使用量の効果的な抑制の提案や居住者間における合意形成へのアドバイスなど、きめ細かいサポートを行うことで、集合住宅のスマート化（共用部のLED化、高圧一括受電サービス*、見守りサービス等）を促進する。</p>	

* **高圧一括受電サービス**：集合住宅1棟全体を一つのまとまりとして、電力会社から高圧で電気を一括購入すること。一般に、居住者それぞれが戸別に低圧の電気を購入するよりも、一戸当たりの電気料金や共用部の電気料金を削減することができるとされている。

10 スマートシティ推進協議会

板橋区スマートシティ推進協議会は、スマートシティに関する区内外の様々な情報を集約・共有し、広く発信するなどして、本方針の趣旨に沿った取り組みを推進することにより、「板橋区らしいスマートシティ」の実現をめざすことを目的として、平成 28 年 10 月に設置されました。

平成 28 年度は、準備期間として主に本方針の策定や民間事業者等が参画しやすい枠組みなどについて検討を行ってきました。平成 29 年度からは、順次、勉強会・交流会などを開催し、民間事業者等と行政との連携や民間事業者同士の交流・連携などを促すとともに、民間事業者等から提案を募集するなどして、本方針の趣旨に沿ったプロジェクトを創出し、推進していく予定です。



図：協議会の主な役割と組織構成イメージ

* 専門部会（勉強会・交流会等）：

複数の民間事業者等の様々な主体が参加して、スマートシティに関する情報の収集や情報交換、参加者同士の連携（マッチング）などを行う。ここから、板橋区らしいスマートシティを実現するためのプロジェクトを創出し、“認定プロジェクト”へ発展することをめざす。

** 認定プロジェクト：

協議会が推進方針の趣旨に沿った取り組みとして認定したプロジェクト。事業提案者、協議会、区が連携してプロジェクトの事業化をめざす。民間事業者等からの事業提案を協議会が審査して認定するものと、専門部会の勉強会等から発展して認定されるものがある。

板橋区スマートシティ推進協議会 委員名簿

(平成 29 年 3 月現在)

区分	氏名	役職
学識経験者	城所 哲夫	東京大学大学院 准教授
学識経験者	木村 清一	東京大学 客員研究員
学識経験者	永井 祐二	早稲田大学 研究院准教授
区職員	太野垣 孝範	政策経営部長
区職員	久保田 義幸	危機管理室長
区職員	藤田 雅史	区民文化部長
区職員	細井 榮一	産業経済部長
区職員	渡邊 茂	健康生きがい部長
区職員	小池 喜美子	福祉部長
区職員	森 弘	子ども家庭部長
区職員	山崎 智通	資源環境部長
区職員	杉谷 明	都市整備部長
区職員	老月 勝弘	土木部長
区職員	寺西 幸雄	教育委員会事務局次長

本方針の策定における検討経過

【スマートシティ推進協議会】

回	開催日	検討内容
第 1 回	平成 28 年 10 月 6 日	・委嘱状伝達式 ・推進方針及びプロジェクトの考え方について
第 2 回	平成 28 年 12 月 16 日	・スマートシティ推進方針（案）について ・リーディングプロジェクト（案）について
第 3 回	平成 29 年 3 月 10 日	・スマートシティ推進方針（案）について ・協議会の概要について

【スマートシティ推進協議会 幹事会*】

回	開催日	検討内容
第 1 回	平成 28 年 11 月 15 日	・スマートシティの将来像と推進方針について ・プロジェクト（リーディングプロジェクト）について ・協議会の制度設計について
第 2 回	平成 29 年 1 月 30 日	・スマートシティ推進方針（案）について ・リーディングプロジェクト（案）について ・協議会の制度概要について ・協議会の構成員について

*スマートシティ推進協議会 幹事会：

協議会の下部組織で、協議会委員のうち、区職員（部長級）の所属する部等の課長級職員で主に構成され、協議会の会議事務を整理する。

板橋区スマートシティ推進方針

編集 板橋区資源環境部環境戦略担当課

〒173-8501 板橋区板橋二丁目66番1号

TEL 03-3579-2622 FAX 03-3579-2589

s-kankyo@city.itabashi.tokyo.jp

平成29年3月発行（平成29年8月改訂）



板橋区 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号 URL <http://www.city.itabashi.tokyo.jp/>